



# AI inside 株式会社

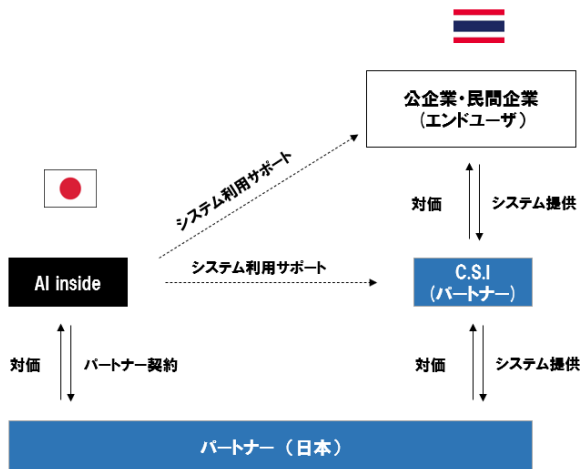
## タイにおける業務自動化に資するAI-OCRの開発・導入実証事業

### 本事業の目的

タイは「中所得国の罠」と「高齢化」という社会課題に直面しており、その解決が急務である。これに対処する手段として、自社開発のAI-OCRサービス「DX Suite」の導入実証を推進する。

「DX Suite」は、高度な文字認識AIにより書類のデジタル化を大幅に効率化し、生産性向上に貢献することができる。タイ市場向けのモデルを開発し、タイにおけるAI-OCRの受容性と有用性を検証することで、日本からASEANへの横展開・ビジネス拡張、ひいては社会課題の解決を目指す。

### 現地企業や政府との協力・連携



■ 現地パートナー：  
C.S.I.(THAILAND)  
COMPANY LIMITED

■ 協力・連携の内容：タイ  
のエンドユーザに対し、AI-  
OCRサービス「DX Suite」  
の導入検証を行う

### 現地の経済・社会課題

タイは1960年から2000年にかけて低所得国から上位中所得国へと劇的に変貌を遂げた。しかし、2010年から2021年にはASEAN諸国中で最も低い成長率となり、「中所得国の罠」に直面している。デジタル化の遅れが生産性の低下を招くとともに、外国企業による生産拠点の移転や人材流出などが経済成長に悪影響を及ぼすリスクがある。また、タイは急速な高齢化に直面し、2029年には人口減少が見込まれている。

このように、ASEANの中でも、タイは特にイノベーションによる生産性向上を喫緊の課題としている。タイ政府は「タイランド4.0」を策定し、2036年に高所得国への移行を目指している。具体的には、イノベーションを促進し、次世代自動車、スマート電子、デジタル産業、メディカルツーリズム、バイオテクノロジーなどの新産業を育成することで、中所得国の罠から脱却し、持続可能な経済成長を目指す方針である。

### DX Suite



【DX Suite の画面イメージ】



【ROCK Thailand #4 登壇の様子】



# AI inside 株式会社

## タイにおける業務自動化に資するAI-OCRの開発・導入実証事業

### 実証期間

2022年9月～2023年6月

### 実証した内容

日本市場でシェアNo.1のAI-OCRサービス「DX Suite」を用い、以下の3点を検証した。

1. 「DX Suite」のタイにおける導入検証
2. タイ市場に適合する非定型帳票読取モデルの開発
3. ニーズの把握及びサービスの受容性・有用性の検証

また、検証過程で「Rock Thailand #4」への登壇やワークショップ等の開催を通じて102社のユーザ候補企業と商談を行い、当社サービスに関する様々な仮説検証を実施した。

### 【検証した仮説とKPI】

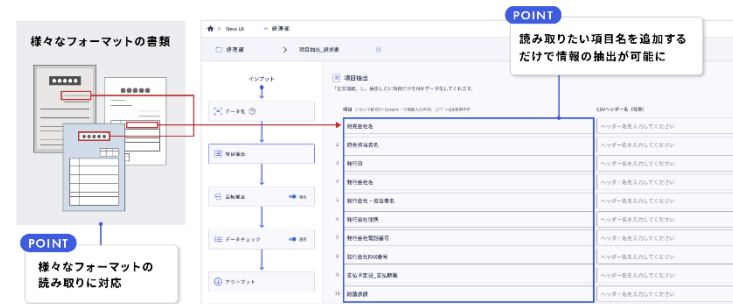
|                |  |
|----------------|--|
| 検証した仮説         | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. AI-OCRの市場、ビジネス拡張性検証</li> <li>2. DX Suiteの有効性検証</li> <li>3. 非定型帳票読取AIモデルの有効性検証</li> <li>4. ビジネス展開、収益化検証</li> </ol>  |
| 重要業績評価指標 (KPI) | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定量的側面：①企業数、エンドユーザの属性、帳票の種類、月間帳票数</li> <li>2. 定性的側面：①DX Suite及び非定型帳票読取モデル（機能面の確認、ユーザエクスペリエンスの確認）、②ビジネス拡張性（有効な利用シーン、対象帳票、後続システムとの関係、パートナーの反応、法律面）</li> </ol> |

### 事業の成果/今後の予定

タイのパートナー候補17社、ユーザ候補102社との商談を実施した結果、AI-OCRに対する需要は高いが、市場の要求は日本と異なることが明らかになった。特に、非定型帳票への対応ニーズが日本以上に旺盛であった。

上記の差異に加え、AI業界における生成AI・LLM（大規模言語モデル）の革新的な進化など当社を取り巻くビジネス環境の大きな変化を踏まえ、海外事業は現状維持を基本に、本事業を2023年6月に終了し、将来を見据えたプロダクト開発に注力する方針とした。

本事業終了後の進捗として、生成AIの実装など「DX Suite」の大型アップデートを行った。これにより、学習不要であらゆるフォーマットの書類を読み取ることが可能になった。これまで読み取る難易度が高かった非定型書類を含む、膨大なアナログデータのデジタル転換を加速する。まずは国内市場を対象としているが、中長期的には非定型書類の多い海外市場への展開も視野に入れている。



【生成AIを実装し学習不要であらゆる帳票を読み取り可能に】